

広報たかなべ

2014. 3. 20 NO. 387

- ・特集 みんなで力を合わせれば
- ・～できることから始めよう～ チャレンジ！ごみダイエット
- ・再編交付金で生活環境が整備されました
- ・平成25年度たかなべ未来づくり事業報告
- ・住みよいまちをつくるために 私たちは、滞納を許しません
- ・町全体が発信者になれ！
- ・2014 春季キャンプin高鍋
- ・「牧水かるた」通じて育む郷土愛と言語感覚
- ・乗って残そう！公共交通！
- ・「臨時福祉給付金」及び「子育て世帯に対する臨時特例給付金」について
- ・まちの話題
- ・わが町の宝物



2月9日 第4回たかなべ 食の文化祭(健康づくりセンター)

自慢の料理が大集合！

今年で4回目となる「たかなべ 食の文化祭」。各家庭の自慢の料理一品を会場に持ち寄ってもらい、みんなで料理にまつわる話を楽しみながら試食を行いました。地域や家庭に受け継がれる味の大切さとみんなで食べることの楽しさを改めて感じるイベントとなりました。



みんなを笑顔に

したいから

未曾有の大惨事となった口蹄疫の影響で、この町が深い悲しみに包まれていた平成二十二年の夏。地元農家の人たちが、みんなを笑顔にすることはできないかと考え、思いついたのが「ぎやべつ畑のひまわり祭」でした。

一面に広がるヒマワリを見て笑顔になる人たち。その笑顔を見た地域の人たちは「もつとみんなに喜んでもらいたい」という気持ちが膨らみます。その気持ちを反映して、規模は年々拡大。昨年は、七十五ヘクタールに一千万本のヒマワリを咲かせ、日本最大規模を誇るまでに成長しました。

最初は、地域の農家が主体となっていたイベントも、翌年になるとこれに商工会議所や商工団体、NPOなどが賛同。同協議会が中心となり、みんながこれを支えるというイベントがスタートしました。

昨年度からは、農家の女性を中心となつてヒマワリの種まき体験などの参加者を募り、農家と一緒にヒマワリが咲く喜びを分かち合いながら、イベントを身近に感じてもらえる取り組みも行われています。

口蹄疫は大きな被害をもたらしましたが、「みんなを笑顔にしたい」という地域の強い思いと絆が、このイベントを通じて、町全体を包む大きなつながりへと発展したのです。

～地域の力、支えてくれるみんなの力～

人との出会い、絆に感謝



染ヶ岡地区のキャベツ・白菜農家
大脇 直美さん

昨年行われた毎日新聞社主催の農や食、環境への思い、提言をつづる「第41回毎日農業記録賞」の中で、全国から寄せられた1,161編の中から最優秀賞を受賞

この町が暗く、沈んだ気持ちに包まれた口蹄疫のとき。日ごろから、強い絆で結ばれていたこの地域の人たちだからこそ、キャベツ畑に「ヒマワリ」が生まれたのだと思います。

今では日本一の規模を誇るまで大きくなった「ひまわり祭」ですが、農家の力だけでは、イベントを継続することはできません。農商工の連携や、表には見えないたくさんの人たちの協力、そしてイベントに来た人たちの笑顔に出会えるから、継続できるのだと思います。

自らの負担を省みず、ヒマワリを見ようと足を運んでくれる人たちのことだけを考えて協力してくれる地域の人たちには、感謝の気持ちでいっぱいです。この思いをイベントに訪れた人にも伝えられるような祭りにしたいと思います。

染ヶ岡地区環境保全協議会会長
橋本 重美さん



染ヶ岡地区の地域保全・美化活動などを行いながら、「ぎやべつ畑のひまわり祭」の実行委員長として、イベントの開催に尽力

口蹄疫の影響で、町全体が元気を失っているとき、農家の力でみんなを元気づけられるものはないかと考えました。そして思いついたのが、畑にすき込めば緑肥になる「ヒマワリ」をキャベツ畑に植えて咲かせることでした。

暑い夏に、青空に向けて元気に花開いたヒマワリ的美しさにとても感動しました。すると、自分たちと同じようにこのヒマワリを見て感動した町内の商業、工業を営む方など、たくさんの人たちが手伝ってくれるようになりました。

ここまで大きく成長できたのは、イベントで注目される前からずっと支え合ってきた地域のつながりと、それを築いてきた先輩方の力と教えがあったからだと思います。

これからも、みんなで協力しながら、一人でも多くの人に感動してもらえるイベントにしていきたいです。



児湯農協青年部
高鍋支部
部長 兵藤 敏光さん

一緒にできること

協力できること

それがうれしい

「取材を終えて」
今回、取材を通して商業、農業を営む方に話を聞かせていただきました。その中で、皆さんが言われたことは、協力してくれる人たちやここまでの道を築き上げてくれた先輩方への「感謝の気持ち」でした。
両協議会とも、これまでの地道な努力の積み重ねと、それを支える人と人との絆が、今回のような素晴らしい賞に結びつきました。農商工連携の絆がより強くなることも望みつつ、この町に住む一人一人の絆を深めることの大切さを改めて感じました。



個々の魅力がつながり

新たな魅力が生まれる

景観の統一により一体感が生まれ、ほかにはない、ここ에서만感じるこのできない町並みが造られました。そして、これが商店街の新たな魅力として、観光客を呼び込むことにつながりはじめたのです。

商店街に人の

流れをつくりたい

景観以外にも、自主独立イベントプロジェクトとして、町の特産品であるキャベツをテーマにしたスイーツの開発など、商店街に人を呼び込む取り組みが行われています。同協議会の小澤正隆会長は、「今

～特集～

みんなで力を合わせれば

昨年末、経済産業省が選ぶ「がんばる商店街30選」にまちなか商業活性化協議会が、そして年明けには全国の地方新聞と共同通信社が選ぶ「地域再生大賞」に染ヶ岡地区環境保全協議会が行う「ぎやべつ畑のひまわり祭」が選定されるという、とてもうれしいニュースが飛び込んできました。

それぞれ大きな賞を受賞するまでには、みんなが力を合わせて、前に向かって頑張る姿がありました。

The Interview



だっくす 代表 橋本 善輝さん
妻 克枝さん

妻の実家が高鍋町にあることが縁で、宮崎市から移住しました。以前は飲食業とは関係のない仕事をしていたので、最初は、この町のことも仕事のことも分からず、不安と戸惑いの日々でした。しかし、商工会議所青年部に入ったことで、たくさんの人たちと出会うことができ、つながりを作ることができました。これまでこれしたのは、商店街の人たち、そしてこの町の人たちの助けや支えがあったからだと思っています。

「がんばる商店街三十選」に選ばれて、以前より多くの人に注目されるようになりました。しかし、買い物客を商店街に呼び込むには、ここにしかない魅力を生み出していかなくてはならないと思っています。大勢の買い物客で賑わう商店街になるよう、これからも、みんなで力を合わせて頑張っていきます。



町家本店で購入できる、「だっくす」の新商品「キャベツぶりん」

町外から商店街の一員となり、景観づくりやキャベツスイーツの開発などに力を注ぐ「だっくす」さんに話を聞きました



ごみクイズにチャレンジ！

～何問正解できるかな？～



高鍋町のごみに関する3択クイズです。3つの中から正解を1つ選んでください。

- Q1 高鍋町で平成24年度に処理したごみの量は約6,834t。そのうち、各家庭や各事業所から排出される燃やせるごみ（青袋）の占める割合は約何%でしょう？

A 50% B 70% C 85%
- Q2 食べ残しや調理くずなどの生ごみの大部分は「水分」です。では、生ごみの約何%が水分とされているでしょう？

A 50% B 65% C 80%
- Q3 高鍋町の全世帯（約9,500世帯）が毎日大さじ2杯（30cc）の水切りをすると、年間何tの生ごみの減量につながるでしょう？

A 1.04t B 10.4t C 104t
- Q4 プラスチック製の容器（弁当箱やタッパーなどの密閉容器）をごみで出すときは、何色のごみ袋に入れて出したらよいでしょう？

A 青の袋（燃やせるごみ）
B 緑の袋（プラスチック製容器包装類）
C 赤の袋（燃やせないごみ）
- Q5 靴やバックをごみで出すときは、何色のごみ袋に入れて出せばよいでしょう？

A 青の袋（燃やせるごみ）
B 緑の袋（プラスチック製容器包装類）
C 赤の袋（燃やせないごみ）
- Q6 庭木の剪定などをしたあとに、ごみ袋に入らない枝や幹は、どのくらいの長さに切りそろえてごみに出せばよいでしょう？

A 50cm B 80cm C 1m



答え

何問できたかな？

Q1 C. 平成24年度に処理した燃やせるごみ（青袋）の量は、約5,826tで、全体の約85%を占めています。

Q2 C. 約80%が水分とされています。この水分を減らすために、よく水切りを行うことで、生ごみの排出量をもっと減らすことができます。

Q3 C. 生ごみから30ccの水切りを毎日続けると 30cc×9,500世帯×365日÷104t の減量につながります。ちなみに、1t当たりの可燃ごみ処理費用は、約3万円なので、これを実践すると年間約312万円の費用削減ができる計算になります。

Q4 A. プラスチック製の容器は青の袋（燃やせるごみ）で、プラスチック製の容器包装類は緑の袋（プラスチック製容器包装類）で出してください。

Q5 A. 青の袋（燃やせるごみ）で出してください。このほか、次のような物も青の袋（燃やせるごみ）で出してください。
・ビニール紐類（荷造り用含む） ・ビデオテープやCDなどに類するもの（ケースを含む）
・ハンガーや洗濯ばさみ類 ・おもちゃ類 ・洗面器やバケツなどの容器類 ・ホースやゴム手袋など

Q6 B. 80cm以内に切りそろえて、紐でしばって、西都児湯資源リサイクルセンターへ直接、粗大ごみとして持ち込んでください。

ごみの減量化に協力をお願いします



町民生活課 金丸 寿生 係長

私たちは生活する中で、ごみは必ず出てしまうものですが、そのごみも、ここで紹介したように、少し手を加えるだけで減らすことができます。家庭でのごみの出し方を再度見直し、「生ごみの水切り」「4Rの実践」をお願いします。また、町の出前講座を利用して、地区の皆さんなどと一緒に、この町のごみの状況を、知るのも良いと思いますので、お気軽にご相談ください。ごみ処理経費の削減のためにも、そして地球環境保護のためにも、皆さんの協力をお願いいたします。

【取材を終えて】
今回の取材を通して、改めて自分のごみ分別を見直してみたい。すると、可燃ごみで捨てているものが多いことに気がつくきました。三角コーナーに入ったビニール類を取り除いて、さらに残飯をギョツと一絞りと、そして最小限の新聞紙に包んで出すと、こんなに生ごみの量は減るのかと驚きました。一人でごみを減らせる量は少なくても、「チリも積もれば山となる」です。町民の皆さん、子どもたちに美しい環境を残すためにも、一緒にごみ減量に取り組んでいきま

ごみ減量化をめざして



～できることから始めよう～

チャレンジ！ごみダイエット

私たちが生活する中で発生するごみ。ごみが増え続けると生活環境が汚染されたり、ごみを焼却すると発生する二酸化炭素の影響で地球温暖化にもつながります。また、ごみを処理するためには膨大な費用がかかるため、税金への負担が増えるなど日常生活に大きな影響を与えます。では、私たちが普段の生活の中でごみを減らすためには、どのようなことに気をつけて取り組めばよいのでしょうか。

高鍋町のごみの量 多いの？少ないの？

本町の各家庭から出されるごみの量は、平成十九年度をピークに年々減少傾向が続いています。これは、ごみ減量の意識が住民一人一人に浸透し、各家庭で、ごみを減らすための工夫や努力を行っている結果と言えます。しかし、西都児湯管内で比較すると、昨年度の本町の総ごみ排出量は多い方から二番目、そして、一人当たりのごみ排出量は、一番目という悪い状況になっています。

ごみ減量がなぜ必要なの？

ごみを減らすことは、地球環境を守ることにつながる。はもろんですが、ごみの量が増えると、ごみ収集に関する費用やごみ処理施設への負担が増え、町の財政を圧迫します。昨年度、本町がごみ処理のために支出した経費は、三億円を超えており、町の財政に大きな影響を与えています。

新聞紙は古紙でリサイクル！

可燃ごみを減らすために、まず家庭で一番に取り組んで欲しいこと、それは、生ごみ

「4R」ってなに？

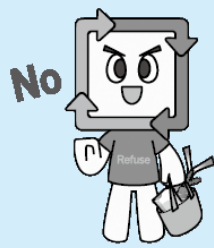
皆さんはごみを減らすための「4R」ってご存知ですか？

（R）e f u s u （リフューズ）
（R）e d u c e （リデュース）
（R）e u s e （リユース）
（R）e c y c l e （リサイクル）

四つの頭文字「R」をとって、4R（ヨンアール）と読みます。

本町では、第五次総合計画の中で、ごみの減量とリサイクルの推進を掲げ、町民と行政が協働しながら、4Rを取り入れた、ごみ減量の取り組みを進めています。

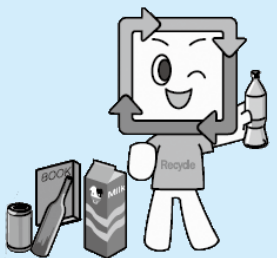
などを出すときは「新聞紙は最小限」で包むことです。新聞紙は、今年度は古紙として出すと一*当たり約七円で買い取ってもらうことができます。これは町へ戻されます。しかし、ごみで捨てられると一*当たり約三十円の処理費用が発生するため、町からごみ処理の経費を支払うことになるのです。同じ新聞紙なのに、ごみの出し方の違いで、一方では可燃ごみで支出、一方では資源ごみで収入になるのです。



ごみになるものを断る

リフューズ（Refuse）

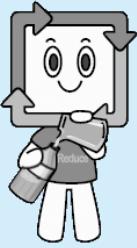
- 本当に必要か考えてから買う
- マイバックを持参し、レジ袋を断る
- 過剰包装を断る



再生利用する

リサイクル（Recycle）

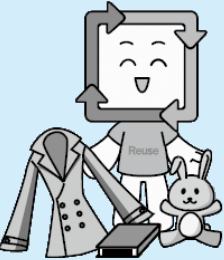
- 分別基準に従ってごみを出す
- 牛乳パックや食品トレーなどは店頭回収を利用する
- 生ごみはコンポスト（有機堆肥）などにする



ごみを減らす

リデュース（Reduce）

- 使い捨て商品よりも詰め替え商品を選ぶ
- はかり売りやばら売りのものを購入する
- 長持ちする商品を選んで買う



くり返し使う

リユース（Reuse）

- 壊れたものは修理して長く使う
- 不用になったものを工夫して使う
- リサイクルショップやバザーを活用する

イラスト提供：宮崎県ごみ減量化テキスト

◆お問い合わせ 町民生活課 環境保全係 TEL：26-2017

再編交付金で生活環境が整備されました

町では新田原飛行場関連再編関連特別事業（再編交付金事業）を利用し、生活環境の向上、地域活性化を図るための各種事業を行っています。
今年度は、教育活動の推進と充実を図るため、学校環境の改善を重点的に行いました。

◆西小学校調理室備品整備

昭和五十六年に建設された西小学校調理室は、調理備品の老朽化が進んでいます。そのため、調理備品を購入することで、衛生環境の改善を図りました。



新調した電気消毒保管庫

◆東中学校教育環境改善事業

東中学校にある校舎のほとんどが、建設されてから三十年以上が経過しています。平成二十四年度までに町内の中学校の学校校舎の耐震化が完了していますが、老朽化施設の改善が必要となっています。そのため、老朽化施設の改修などを行い、生徒の教育環境の改善を図りました。

東中学校施設改修工事

- ▼プールの外壁・老朽階段改修
- ▼昇降口棟の屋上防水工事・手洗い場の増設
- ▼部室棟屋根改修
- ▼運動場フェンス改修



改修後のプール



給食コンテナ室階段

東中学校と同じく、校舎のほとんどが、建設されてから三十年以上が経過しています。そのため、老朽化施設の改修などを行い、生徒の教育環境の改善を図りました。

西中学校施設改修工事

- ▼プールの外壁・老朽階段・プールフェンス改修、プール本体塗装
- ▼給食コンテナ室スロープ改修（スロープから階段へ変更）



新設された手洗い場



改修後の部室棟

- ▼給食コンテナ室スロープ改修（スロープから階段へ変更）

平成25年度たかなべ未来づくり事業報告

住民参画による快適で美しいまちづくり

「たかなべ未来づくり事業」は、将来にわたって町民が誇りを持ち、個性的で魅力ある地域社会の実現を図るための事業です。町民の提案による公共・公益性の高いまちづくり活動に町が予算を付けて、町民が事業を実施します。平成23年度から始まり、今年度は4事業が行われました。

◎高鍋ことばの児童文学書復刊事業

NPO法人 野の花館
▲参加者： 80人
▲補助額：500,000円

本町で幼少期を過ごした児童文学者 稗島千江氏の代表作で高鍋弁が入った「黒ずきんちゃん」を復刊し、町民に広くこの本に触れる機会を作りました。



◎高鍋町国際交流推進事業

NPO法人 海外交流協会
▲参加者： 764人
▲補助額：400,000円

文化・スポーツ・地域との交流を通じて、子どもたちが海外に目を向ける機会を作りました。



◎渚のダンスコンテスト

NPO法人 児湯・高鍋ライフセービングスポーツクラブ
▲参加者：59人(10チーム)
▲補助額：489,000円

ダンスで元気に体を動かしながら、人と人との触れ合いの機会を増やしました。また、砂浜の現状を知り、自然環境について考える機会を作りました。



◎蚊口浜清掃活動・子どもサーフィン教室

NPO法人 AI
▲参加者： 141人
▲補助額：500,000円

砂浜清掃を通じて、自然環境保護に関する子どもたちの意識向上とサーフィンを通じて、蚊口浜の良さを知り、郷土愛を育成する取り組みを行いました。



住みよいまちをつくるために 私たちは、滞納を許しません

税金や各種料金（保育料、介護保険料など）は私たちの生活やまちづくりを支えるのになくはない財源です。

町では、住民のみなさんにとって公平な負担と充実した行政サービスの提供のため、滞納対策に積極的に取り組んでいます。

●滞納は住民生活全体の損失

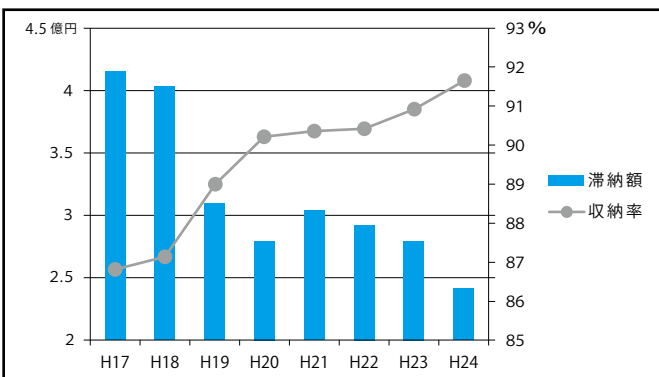
高鍋町では、庁内一丸となつての滞納対策により、町税（国保税含む）の滞納額は、平成17年度の4億1,600万円から、平成24年度には2億4,100万円となり、7年間で約1億7,500万円が解消されました。また、収納率も平成17年度の86.8%から平成24年度には91.7%と向上しました。

滞納額が解消している要因は、差押や家宅搜索、公売会などの滞納対策の成果と思われます。

しかし、依然として2億円以上の滞納があり、本来住民サービスに活かされるはずの財源が失われています。

滞納をするということは、生活に必要な不可欠な住民サービスの損失に直接かかわってくるのです。

町税（国保税含む）の滞納額と収納率の推移



●現在の取り組みと債権管理条例の制定

町では現在、全庁的な滞納対策のために関係各課と連携を図りながら、町全体の債権管理の方針や収納率向上の対策に取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、税や保育料、介護・後期高齢者医療保険料などについては、督促状を送付しても納付がない場合、法律に基づき、財産調査や家宅搜索を行い、差押などの滞納処分を実施しています。

そして、より一層適正な債権管理を行うため「高鍋町債権管理条例」を制定しました（平成26年1月1日施行）。これにより、町営住宅使用料や水道料などの私債権についても、督促状を送付しても納付がない場合は、裁判所を通した法的整理（支払督促や訴訟、強制執行など）を行っています。

●相談も重要な滞納対策です

納付が困難で悩んでいるのに「役場の窓口で納付相談に行くなんて嫌だ!」と思っている方は多いのではないのでしょうか。また、話し合っても結局は「税金などを取られるだけ」と思っていないませんか?

差押や家宅搜索だけが滞納対策ではありません。滞納があればどのように解消・解決していくか相談を受けて話し合うことも滞納対策の一つなのです。

相談をすることで、生活の改善点に気づき、問題点を職員と相談者で共有し、対策を練ることができます。また、実際に、相談をいただいた中で、借金問題の解決ができた事例も少なくありません。

納付相談は「生活改善のための相談」と思って窓口に来てください。そして一緒に考えていきましょう。

合同公売会を行いました

滞納者から差し押えた動産を売却し、売上金を滞納税に充当する公売会を、昨年9月に高鍋町中央公民館で熊本県御船町と門川町との合同で行いました。会場には、食器や装飾品のような小さな物件から、テレビや雛人形といった大型物件まで170点が並び、約150人が訪れました。来場者の1人からは「欲しい物が安く購入できたが、ここに来て、改めて納税の義務を感じた」と話してくれました。

滞納対策は住民の納付意識の向上にもつながります。これからも高鍋町では積極的に滞納対策に取り組んでいきます。



合同公売会の様子